

月	1	先負
火	2	仏滅
水	3	大安
木	4	赤口
金	5	先勝・清明
土	6	仏滅 還暦茶会
日	7	大安 還暦茶会
月	8	赤口
火	9	先勝
水	10	友引
木	11	先負
金	12	仏滅
土	13	大安
日	14	赤口 休日営業16時まで
月	15	先勝
火	16	友引
水	17	先負
木	18	仏滅
金	19	大安
土	20	赤口・穀雨
日	21	先勝 定休日
月	22	友引
火	23	先負
水	24	仏滅
木	25	大安 プチ茶事
金	26	赤口 プチ茶事
土	27	先勝 プチ茶事
日	28	友引 定休日
月	29	先負 休日営業16時まで
火	30	仏滅 定休日

一フ千茶事の提案一

ご予約制の
フ千飯後茶事で
お楽しみいただきたく

4/ 25 木 26 金 27 土

今回ご予約制の「プチ飯後茶事」を開催することになりました。
香煎→煮物椀・向附→八寸→薄茶
尚、時間短縮の為、炭点前・濃茶は省略させていただきます。

お客様のご予約を 4/8(月) よりお電話にてお待ちしております！

1席 5名様まで 1席目 10時～ (3日間共通) お一人様でも
1時間15分程度 2席目 11時30～ 於 1階小間席 グループ様でも
会費 1,500円 3席目 13時～ お気軽に
4席目 14時30分～ ご参加ください



月刊
いつもの
ギャラリー
さん
(題字・三輪休和)
113号
2019年4月発行

いよいよ「平成も残すところあとひと月になりました。ちよつと十年前の二〇〇九年平成二十一年九月に創刊させていただきました「月刊ギャラリーさん」も約十年、平成と共に歩みました。史記「内平外成」書経「地平天成」より出典とされた元号「平成」。天皇陛下が今年の年頭挨拶で「わが国と世界の人々の安寧と幸せを祈ります」とお言葉を述べられました。新しい時代が無事でやすらやかでありますように。



トオル社長の珍道中 還暦を迎え国宝 姫路城にて思ふ

息子の修業先の姫路に行ってきました！
振り返ってみますと、私は18歳高校卒業してすぐ、大阪の茶道具商に丁稚奉公に行きました。同級生が進学・就職する中、皆とは違う道を選んだこと今となって10年よく頑張ったな～と勝手に思っています！
息子は大学卒業後3年間四日市へ修業、さらに現在の姫路で頑張っていますあわせて6年間奉公することになっています。よく「他人の飯を食う」と言いますが美術商の世界では古くからあるしきたり？で「どの店で修業したか」によって何やら印籠をさすかったみたいいな感覚、しずかなプレッシャーを感じるようになります。「目利きですわ～」なんて言葉は時として窮屈になる時があります・・・そんな息子と記念写真。

姫路と言えば、「茶人名 酒井忠以(さかいたださね)号 宗雅」以前、鵬雲斎大宗匠の戦友でもある方の茶会で、展示解説されてきました。宗雅は、雅楽頭うたのかみ系酒井家宗家10代で姫路藩酒井家第2代藩主姫路藩酒井家の長子として誕生し、11歳の時に父忠仰を亡くし、その後母、祖父を亡くして、18歳で姫路藩の藩主となる。絵画、茶道、能、俳諧、和歌にも非凡な才能を示した江戸時代後期の代表的な大名茶人の一人で、特に絵画と茶湯にかけた情熱は並々ならないものであった。一得庵、逾好庵とも号した。安永8年(1779年)、25歳の時、ともに日光東照宮修復を命じられた縁がきっかけで出雲松江藩主の松平不味

と親交を深め、不味から石州流茶道の指導を受け、後に石州流茶道皆伝を受けて将来は流派を担うとまでいわれた。一方、宗雅の代の藩政であるが、4年間における天明の大飢饉で領内が大被害を受け、藩財政は逼迫ひっばくした。このため、忠以は河合道臣を家老として登用し、財政改革に当たらせようとしたが失脚した。宗雅は、寛政2年(1790年)36歳で早世したが、筆まめで、趣味、日々の出来事・天候を『玄武日記』(22歳の正月から)『逾好日記』(33歳の正月から)に書き遺している。「逾好日記」には天明8年(1788年)参勤交代途中で出会った見付宿での不味との茶事の様子が、詳細に記録されている。日記に記載されている蟹蓋置を紹介し、東山御物蟹蓋置 天明7年7月20日の茶事で使用

慈照院(足利義政)が金閣寺の庭の景物として13個製作し、その一つを武野紹鷗が譲られ蓋置に使用した。本歌は 紹鷗 利休 遠州 土屋 酒井 松平と伝来ス。写真蓋置は宗雅が故実により造らせた蟹蓋置。



また宗雅の弟は酒井抱一。絵画の手ほどきをしたのは、非凡な才能があった兄の宗雅と言われ江戸琳派の祖となった。宗雅の所持した名物茶道具はその死後不味に伝わった。
一酒井宗雅資料集より

今月の推奨商品のご紹介 華乃会お買得価格でのご紹介 平成最後です！

南口閑粹 伊勢物語茶碗

¥22,000→¥15,400

福本未来 兜絵茶碗

¥24,900→¥17,400

藤七 ガラス水指

¥30,000

竹内真三郎 玳瑁天目茶碗

¥18,000

須山昇華 菖蒲絵茶碗

¥24,000→¥16,800

福本未来 菖蒲絵茶碗

¥24,900→¥17,400

岩田藤七(1893~1980) 現代のガラス作家にも多大な影響を与えていた藤七は、東京美術学校で彫金・洋画・彫刻を学んだ後、アーノルド・ボニーに啓蒙され、ガラスの道を志した。色彩豊かで流動的な形、暖かみのある作品は、世界のガラス芸術に影響を与えた。
玳瑁天目は、吉州天目龍蓋(べっさん)と呼ばれ、中国江西省の吉州窯で宋代に焼かれた陶磁器のうち、天目釉をかけた、表面に龍甲(べっこう)のような文様のあるものをいう。内面には花や尾長鶏などの文様をつけたものもある。また高台は非常に小さい。日本の伝世品に優品が多く名物に選定されている。



3月・4月号は各地の桜の風景をお届けします
編集の窓
吉野山の桜 吉水神社から一目千本 photo by S.A

ご案内
ギャラリー森田ホームページ
右記のQRコードを読み込み
アクセスしてください！

Instagram
いただいた蕾だった河津桜がすっかり満開となりました。ニュースではソメイ吉野の開花情報があり、あっという間に満開になっていきます。惜しいと思ってるうちに散っていく桜だからこそ毎年こんなに楽しみになります。
月刊「ギャラリーさん」編集プロジェクト